



さくさべ坂通り診療所
院長 大岩孝司さん

心の自律を支える在宅ケア

がんの訪問診療専門の診療所を開設して4年。残された貴重な時間を住み慣れた自宅で過ごしたいと願う末期のがん患者さんの在宅ケアについてお聞きしました。

ジーンズ姿のお医者さん

さくさべ坂通り診療所を訪ねると、どなたかのお宅にお邪魔しているような気持ちになる。誰一人として白衣を着ていない。しかも病院のにおいがしない絵や花が飾られた応接間。そして驚いたのは大岩さんがセーターにジーンズ姿で現れたことだった。

私たちは何らかの医療を受ける際、白衣姿の医師に對峙すると緊張を感じたり何か壁を感じることはないだろうか。権威的な圧迫感を感じ、医師と対等な立場での意思疎通がしにくいこともあるのでは。大岩さんの服装にはそのような配慮も感じられる。

末期がんの在宅ケア

大岩さんは勤務医時代から出勤前や帰宅途中に担当患者の自宅を訪問。経過確認や再発後のフォローなどを行ってきた。平成14年、稲毛区に「さくさべ坂通り診療所」を開設。終末期を在宅で過

ごすがん患者を対象とした訪問診療を始めた。患者数は平均して25人前後。小児から高齢者まであらゆる臓器のがん患者の在宅支援を行っている。末期がんの在宅ケアにおける医療面の支援は、薬による痛みの緩和が中心となる。病院との大きな違いは、痛みが取れたその瞬間から患者自身の生活が始まるということだ。余命数ヶ月の患者が痛みのコントロールにより、自営業を再開したり、ゴルフコースに出たり、念願の沖縄旅行を果たした女性、親戚への最後のあいさつ回りにと国内五ヶ所を旅した60代男性など、いろんな患者さんを診て来た。患者さんが、残された時間をこれまで同様

に生活を積み重ねられるようサポートし、看取りのときまで、そしてその後は残された家族を側面から支援していく。

意思統一の重要性

大岩さんが最も大切に考えているのは、患者さんとその家族と医療者の間でしっかりと意思

統一だ。聞かれたことには答える。治らないことだから言葉には配慮する。でも事実をしっかり伝える。治らないことがはっきりしている患者さんとその家族が、自分たちの置かれていた状況をしっかりと把握することにより、病気に振り回されないで生きる事ができるようになるからだ。「真つ暗な道でも、知っている道と知らない道では不安度も違うでしょう。」と大岩さんは語る。患者や家族が不安になるのは、何が起るかがわからないから。今どういう状況なのか、何が起っているのか、どう対処するのがいいかわかっているならば、落ち着いていられる。人がパニックになるのは状況が把握できないときだ。患者さんや家族と話し合いを重ね、互いの考え方を整理することで不安は

二つの条件

患者自身が家にいたいという意思、家族がそれをサポートする意思、この二つが在宅ケアの必要条件。がんのよいところは制約があっても禁止事項がないこと。痛みや苦しみから解放され、必要に応じて医師や看護師が来てくれるという安心感を得ることで残された時間を住み慣れた家で過ごすことができる。病気や痛みそのものが問題なのではなく、そのことを患者さんが辛いと受け止めるか、痛みがあっても辛くないと思わないかが満足度の鍵になる。痛みを容れ、自身を保ち、前向きに生きられるような「心の自律」を支えるケアの必要性はこれからも高まっていくだろう。



最期まで自分らしくあるために

在宅医療に関する支援活動を行っている団体がある。それがNPOピュア。在宅医療の抱える問題に正面から向きあう。人生の残された時間を最期までその人らしく生きるために、患者や家族を支えるサポート体制は重要である。

末期がんや難病の患者が、医師や看護師の訪問を受けながら自宅で過ごしたいと望んだ場合、どうすれば家族はそれに応えることができるのだろうか？ 家で突然痛み出したら、食事が摂れなくなったら、膨れ上がる様々な不安と同時に、患者本人も家族への負担等の懸念から諦めざるを得ないケースが多いのではないだろうか。

残念ながら医療従事者の間でも在宅ホスピスについて詳しくは知られていない。ましてや医療とは無縁だった一般の人にとって、家へ訪問する医

師や看護師を探したり支援を求めることは至難の技ともいえる。こうして家で過ごしたい、という最期の望みがかなわぬまま亡くなる方が多いのではないだろうか。

この経験をもちに

毎日の暮らしをサポート 身体介護・生活援助

☎043-287-6551
プライムケアセンター

身体介護

生活援助

ご利用者やご家族の皆様が住み慣れた自宅で安心して日常生活を送れるよう、家庭を訪問し日常生活のお手伝いやご利用者の自立支援のお手伝いをします。

身体・知的障害者の援助

お気軽にお問合せ・ご相談下さい

- ☆ 千葉市で実施している介護保険以外のサービス
- ☆ 福祉用具・住宅改修のご相談
- ☆ 介護保険・支援費の申請手続
- ☆ 保険適用外のサービス
- ☆ 訪問理容 ☆ 成年後見制度 などなど…

MAP

2001年NPOピュアを設立。「患者本位の医療間連携づくり、患者や家族に自助努力を強いまないサポート体制づくり、最期の場所を自由に選びそれが実現するシステムづくり」をめざし、情報誌発行、講演会、電話相談、ボランティア養成などの活動を行っている。

昨年作成した冊子「家に帰ろう！在宅ホスピスケアガイドブック・千葉市版」には在宅福祉サービスや自助グループを利用する方法や訪問医の情報、用語解説などが盛り込まれている。治る見込みのない患者が最期まで自分らしく生きられるようにとの願いをこめて作られたこの冊子は「協賛金1000円十送料210円」で頒布中。ご希望の方はNPOピュア事務局へ。

〒273-1085
船橋市金杉7-14013
☎070-55554
3734 (平日13~17時)
E-mail pure@ae2.dion.ne.jp
http://www.npo-pure.npo-jp.net

電話相談受付
☎043-290-3029 (火・金曜13~17時)

